

令和3年度 学校関係者評価実施報告書（まとめ用）

学校番号	74	学校名	浜松湖南高等学校	記載者	伊藤 忍
------	----	-----	----------	-----	------

本年度の取組（重点目標はゴシック体で記載）

	取組目標	成果目標	自己 評価	関係者 評 価	意見
ア	「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善を推進し、能動的学習者を育成する	<ul style="list-style-type: none"> 「授業や家庭学習で学力が向上した」生徒 93%以上 「授業の中で、自分の考えをまとめたり、周囲と共有したりする機会が多い」生徒 90% 	B	B	<ul style="list-style-type: none"> 生徒は真面目に学習している。授業態度もとても良い。AL型授業の成果と考える。 評価においては時間にこだわらず、内容や取り組みで評価することが望ましい。 今後は湖南高校で〇〇をしたいと言う生徒が増えてくることを望んでいる。
イ	低学年より高い志の育成に努め、進路実現を図る	<ul style="list-style-type: none"> 進路行事実施を通しての進路意識の向上 進路情報の提供に満足している保護者 90%以上 1年生で志望分野が決定した生徒 95%以上、2年生で第一志望先が決定した生徒 90%以上 	A	A	<ul style="list-style-type: none"> 進路目標は十分に達成されている。また志望分野が決まっている生徒が多い。模試の指導を充実させた結果と考える。 今後も継続して各教科間で連携しながら、より一層の成果が上がることを期待している。
ウ	規律ある生活の中で、自主・自律の精神を育成する	<ul style="list-style-type: none"> 挨拶ができる生徒の育成 「校則等を守り、高校生らしい服装・行動をしている」生徒 95%以上 「学校行事や部活動等に生徒が主体的に取り組んでいる」生徒・教職員 90%以上 1部活1社会貢献活動 	A	A	<ul style="list-style-type: none"> 登下校時の服装の乱れもなく、気持ちのいい挨拶ができる生徒が多い。 令和4年度から入学する生徒の制服も一新し、更なる生徒のレベルアップを期待している。 新型コロナウイルスの影響で多くの行事ができない中、最大限の努力ができています。 学校行事や部活動等が生徒の人間形成に非常に大きな役割を果たしている。今後も継続して指導していただくことを望んでいる。

様式第5号

	取組目標	成果目標	自己 評価	関係者 評 価	意見
エ	読書習慣の定着と読書量の増大、文化的活動の推進を図る	<ul style="list-style-type: none"> ・読書週間 年2回実施 ・図書館開放年 190日 ・1・2年生の年間読書数平均7冊 	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の読書習慣の定着がなされてきている。読書指導の成果が現れてきている証拠である。 ・読書はあらゆる学習の基本であり、学力向上のためにも継続した指導を期待している。
オ	心身ともに健康で過ごすことができる校内環境を整備する	<ul style="list-style-type: none"> ・「自分の悩みや不安を話す人や機会・場所がある」生徒85% ・健康観察を通じての情報共有 ・校内の清掃点検において全チェック箇所が良好な状態になっている。 ・「訓練や研修会等によって安全・安心に対する意識が高められた」生徒・教職員90% ・施設・設備の事故0件 	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・中学校や関係機関との効果的な連携を推進することにより、生徒の個々の悩み等に迅速かつ適切に対応するための教育相談活動がよりいっそう充実することを期待している。 ・コロナ禍における健康観察は適切に行われており、今後も感染症対策に充分留意した指導を望んでいる。 ・校内の清掃を通じて清潔な状態が保たれており、生徒の安心安全が得られている。 ・防災委員会の活動が、さらに活性化することを期待している。 ・地域の避難訓練に参加して、避難所やその運営方法等について理解するとともに、救急法の研修に参加することで生徒の防災意識がさらに向上する。 ・校内の施設設備等の点検が適切に行われ、事故が発生していない。
カ	職員の校内外の研修を充実させる	<ul style="list-style-type: none"> ・探究学習、カリキュラム・マネジメントを意識した研修機会の充実 ・事務部職員の研修参加（オンラインを含む）昨年比1.1倍 	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・年間を通じ、多くの研修を実施している。その成果を生徒に還元していくことを望んでいる。 ・学校の特徴である英語教育・国際理解教育 充実のために、次年度も継続して研修を充実させていただきたい。

	取組目標	成果目標	自己評価	関係者評価	意見
キ	地域・中学校・保護者等への広報発信を、計画的・継続的に行う	<ul style="list-style-type: none"> 「教育方針・教育活動をわかりやすく伝えている」保護者 80% 管理職・運営委員による中学校訪問年2回以上 「教育活動に魅力を感じた」中学生一日体験入学・オープンスクール参加者 96% 	A	A	<ul style="list-style-type: none"> 学校ホームページを改善し、とても見やすいものになった。その成果もあり、浜松湖南高校の学校の魅力を地域や中学校、保護者に十分に伝えることができている。 今後は、学校ホームページの他にも SNS 等による積極的な発信をすることにより、学校の魅力をより多くの方に伝えていく必要がある。
ク	グローバルな視野の育成及び国際交流を推進する	<ul style="list-style-type: none"> 「国際交流事業がグローバルな視野の育成に役立った」生徒 90% 英語学科の生徒が卒業時まで英語検定2級以上取得する割合 90% 普通科2年生の GTEC における平均得点率 65% 	B	B	<ul style="list-style-type: none"> 英検合格者数の結果は、教員の充実した指導や生徒の努力の結果である。 ヘンドン校との直接交流は2年間中止となっているが、再開したときには、充実した交流や研修がなされることを望む。 普通科生徒も英検受験者数が増え、成果を上げている。今後も英語科のレガシーを普通科に波及させるような指導を期待している。
ケ	参画と連携・協働による生徒の異文化理解・多文化共生及び地域と連携した学習に取り組む	<ul style="list-style-type: none"> 「様々な交流・連携事業への参加により異文化理解が深まった」生徒 95% 国際交流・異文化理解・多文化共生・高大連携事業等への参加希望生徒延べ 250人 	A	A	<ul style="list-style-type: none"> 国際交流事業等については言葉だけの交流ではなく精神面の違い、文化の違いまで深く理解することが大切である。 異文化理解とは、折り合いをつける能力である。そのためにもより積極的な交流が必要である。 全1・2年生を対象としたエンパワーメントプログラムはとても内容のある充実した研修であった。